プレスリリース
解禁日時：2016 年 12 月 10 日（土）正午

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES
JAPAN ICOMOS NATIONAL COMMITTEE
c/o Japan Cultural Heritage Consultancy
2-5-5-13F, Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo Japan 101-0003
Tel & Fax: +81-3-3261-5303
E-mail: jpicomos@japan-icomos.org

報道関係者各位
受賞者関係機関各位

2016 年 12 月 10 日
日本イコモス国内委員会

日本イコモス国内委員会が「日本イコモス賞　2016」を選出

日本イコモス国内委員会は、建造物、伝統的建造物群、文化的景観、遺跡である記念物及び歴史風土の保存、保全及び活用の振興をはかるため創設された「日本イコモス賞」2016 年の受賞者を選出しました。

日本イコモス賞：
文化遺産の保存活用理念、保存活用活動、保存活用プロジェクトの前進に貢献し優れた業績をあげた者に授与します。

「日本イコモス賞 2016」受賞式の開催

「日本イコモス賞 2016」の受賞者発表及び授賞式を以下の通り開催いたします。授賞式では、受賞者よりスピーチをいただきます。

「日本イコモス賞 2016」授賞式

日時：2016 年 12 月 10 日（土）15:15～16:15
場所：独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所　セミナー室（地階）
〒110-8713 東京都台東区上野公園 13-43

ICOMOS

ICOMOS は、1965 年に設立された国際 NGO で、加盟各国の文化遺産保存分野の第一線の専門家や専門団体によって構成されています。ユネスコをはじめとする国際機関と密接な関係を保ちながら、文化遺産保存の理論、方法論、科学技術の研究・応用、およびユネスコの世界遺産条約に関しては、諮問機関として、登録の審査、モニタリングの活動等を行っています。現在、参加国は 106 カ国を数え、会員は 9,500 人にのぼり、※2016 年 3 月現在文化遺産の価値の高揚のための重要な役割を果たしています。
日本イコモス国内委員会（1979 年発足）は、日本国内の ICOMOS 会員が組織する団体で、これらの目的を果たすための国際ネットワークの日本における拠点として活動しています。

イコモス国内委員会について

日本イコモス国内委員会は、2016 年 12 月現在、約 450 名の会員によって構成されています。総会の他、年 4 回の理事会・研究会・来日外国人専門家との懇談会などを開催しています。

日本イコモス国内委員会の基礎は、関野克博士(東京大学名誉教授、元東京国立文化財研究所長)によってつくられました。イコモスの第 3 回総会(1972 年、ブタペスト)で日本国内委員会が承認され、関野博士が委員長に指名されました。1979 年の総会で日本イコモス国内委員会の規約を採択し、ICOMOS 執行委員会の承認を経て正式に発足しました。

日本イコモス賞2016 受賞内定者　※受賞者は12月10日の理事会で正式に承認されます。

西藤清秀（さいとう　きよひで）氏

奈良県立橿原考古学研究所技術アドバイザー

【略歴】
関西大学大学院博士前期課程修了
奈良県立橿原考古学研究所主任研究員を経て現職
日本西アジア考古学会長（2013年6月～2016年6月）

【受賞業績】
シリア・パルミラの葬制研究・保存修復と危機に瀕する文化遺産の
国際会議の組織化と実践

【受賞理由】
西藤清秀氏は、シリア・パルミラを中心に四半世紀以上にわたり考古学的発掘調査と研究を進めてきた。特に1990年～2011年までの20年間は、パルミラの2世紀から3世紀の墓7基の発掘調査にたずさわり、調査した内の2基の地下墓の修復・復元作業に従事した。

発掘後はシリア古物博物館総局との合意のもとに、修復・復元した地下墓の原位置に彫像を戻し、来訪者に見せる手法に取り組み、現地の観光にも大きな役割を果たした。

2011年からのシリア内戦により多大の文化財が強奪・盗掘・破壊にさらされる状況下、西藤氏は日本西アジア考古学会長（2013－2016年）としてこれへの対応を進めてきた。ISの侵攻により状況がますます悪化するなか、2014年から緊急の取り組みとして、日本西アジア考古学会はシリア文化財関係者のための「シリア考古学・文化遺産国際会議」"International Syrian Congress on Archaeology and Cultural Heritage (ISCACH): Result of 2000 to 2011"をレバノンのベイルートで2016年12月3日～6日まで開催した。

会議では15ヶ国の研究者が口頭・ポスターを含め77の発表があった。「シリア文化遺産の将来を考える」特別セッションで、西藤氏はISに爆破されたベル神殿の3次元測量結果を

報告し、精密計測による再現画像を映し出し大きな感動を与えた。シリア側からは、会議の成功を喜ぶとともに、こうした会議の継続の希望が伝えられた。

日本西アジア考古学会、文化庁、330余名の寄付、レバノン大学など、多くの関係機関のサポートにより会議が可能となったことは事実である。しかし西藤氏の長年の調査経験に裏打ちされた創意、組織力、実践の能力がなければ同会議の開催は実現しえなかったこともまた明らかである。危機的状況に直面するシリアの文化財について、シリアの研究者を励まし国際的な研究コミュニティーにも呼びかけた実践は、特筆される。

以上の業績に対し、日本イコモス国内委員会は西藤清秀氏に「日本イコモス賞2016」を授与する。

（写真提供：西藤清秀氏）

Animation of 3D image of the exterior of Temple of BEL
(produced by Accord Co.& Archaeological Institute of

（写真提供：西藤清秀氏）

特定非営利活動法人赤煉瓦倶楽部舞鶴
舞鶴市

【受賞業績】
赤煉瓦を活かした一連のまちづくり

【受賞理由】
特定非営利活動法人（NPO 法人）赤煉瓦倶楽部舞鶴ならびに舞鶴市は 1988 年以来 28 年間に渡り、市民等とともに舞鶴市に残る旧赤煉瓦建造物の保存に努めてきた。同市北吸の煉瓦倉庫群は戦争の遺物として人々に関心を持たれることはなかった。それら 12 棟の内、現在は 8 棟が国の重要文化財に指定され「まいづる赤れんがパーク」として公開されている。「赤れんが博物館」(1993 年)、「舞鶴市政記念館」(1994 年)、「まいづる知恵蔵」(2007 年)、「赤れんが工房」(2012 年)、「赤れんがイベントホール」(2012 年) 等が舞鶴市によって修復整備され、広く市民、観光客に活用されている。

赤煉瓦倶楽部舞鶴は様々な魅力的なイベントを続け、同倉庫群に全国からファンを集め、歴史的建造物の保存と活用を通じた歴史まちづくりの優れた事例を示した。特に活動当初から取組んだ「赤煉瓦サマー・ジャズ in 舞鶴」では、わが国を代表する一流のミュージシャンを招聘し、赤煉瓦建造物を強く印象付けた。こうして赤煉瓦倶楽部舞鶴と舞鶴市は一体となって優れた近代建築群の保存に努め、市民に身近な文化遺産として保全活用してきた。そして赤煉瓦倉庫群を軸に舞鶴市の歴史的環境保全施策を推進し、顕著な成果を挙げた一連のまちづくりの業績は高く評価される。

この長年の取組みは、舞鶴市職員の自主的活動「まちづくり推進調査研究会」の「都市の個性分科会」の活動が発端である。いち早く横浜市「赤煉瓦パーク構想」を知り、舞鶴でも市所有の赤煉瓦倉庫のライトアップに取組んだ。その後、「まいづる建築探偵団」を発足、旧海軍鎮守府倉庫、旧海軍工廠施設、煉瓦生産施設、砲台施設等を次々と調査研究した。これらの成果を、シンポジウム開催等を通じて全国の研究者やまちづくり関係者との交流に拡大し、赤煉瓦倶楽部舞鶴を発足させ、活動を展開、その歴史的価値を高めてきた。

旧海軍基地は終戦まで一般国民には隠され、市街地から隔離された施設群であった。そのため当初市民の関心は低かった。しかし、そこから始め、膨大な関連施設を含む近代化遺産を丁寧に調査し、それらの保存から活用までの過程を地元市民、事業者、行政が一体となって進めた一連のまちづくりは全国の自治体に範を示すものである。

日本イコモス国内委員会は、舞鶴市と赤煉瓦倶楽部舞鶴の歴史的建造物保存に関する長年の貢献と、これを通じて全国の近代建築保存の先導役を果たされてきた業績に対し、「日本イコモス賞 2016」を授与する。

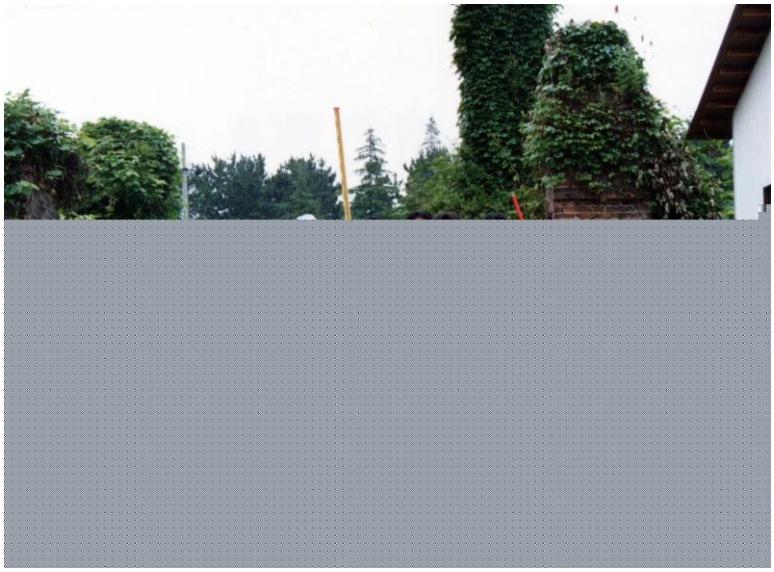
■特定非営利活動法人赤煉瓦倶楽部舞鶴

主たる事務所：京都府舞鶴市字浜 247 番地志摩機械三条ビル 3F
代表者氏名：馬場英男
設立年月日：1991 年 6 月 1 日（法人格取得年月日：2000 年 8 月 9 日）
団体の目的：この法人は、ふるさと舞鶴に残る明治・大正・昭和初期の赤煉瓦建物などの貴重な歴史的建造物を後世に引継ぎ、それを生かしたまちづくりに関する事業を行うとともに、赤煉瓦に縁のある都市のネットワーク化を図り、赤煉瓦を生かしたまちづくりを支援する活動を行い、もって社会全体の利益の増進に寄与することを目的とする。

活動分野：まちづくり／学術・文化・芸術・スポーツ
2002 年・まちづくり功労者（団体）国土交通大臣賞受賞
2010 年・第 3 回ティファニー財団賞伝統文化振興賞受賞
2011 年・自治体学会　第 1 回田村明まちづくり賞受賞
2013 年・舞鶴市制施行 70 周年記念功績者表彰受賞
2014 年・京都創造者大賞（創造者賞もてなし・環境部門）受賞
＊馬場英男他著『赤煉瓦ネットワーク「舞鶴・横浜」物語』2000 年、公職研

■京都府舞鶴市、人口約 8 万 3 千人

舞鶴市長・多々見良三（たたみりょうぞう）
1950 年生。金沢大学（医学部）卒。1980 年金沢大学医学博士。
1980 年金沢大学医学部付属病院を経て 1982 年舞鶴共済病院循環器科、1983 年循環器科医長、1998 年循環器科部長、2004 年日本心血管カテーテル治療学会学術集会会長、2005 年舞鶴共済病院長、2007 年金沢大学医学部学外臨床教授、
2011 年舞鶴市長、2016 年第 2 期当選、現在に至る。
＊なお、対象となる赤煉瓦倉庫群保存への一連の活動は、町井正登市長（1979-1995 年／4 期）の時代に始まり、その後江守光起市長（1995-2007 年／3 期）及び齋藤彰市長（2007-2011 年／1 期）を経て現在に至っている。



（写真提供：特定非営利活動法人赤煉瓦倶楽部舞鶴）